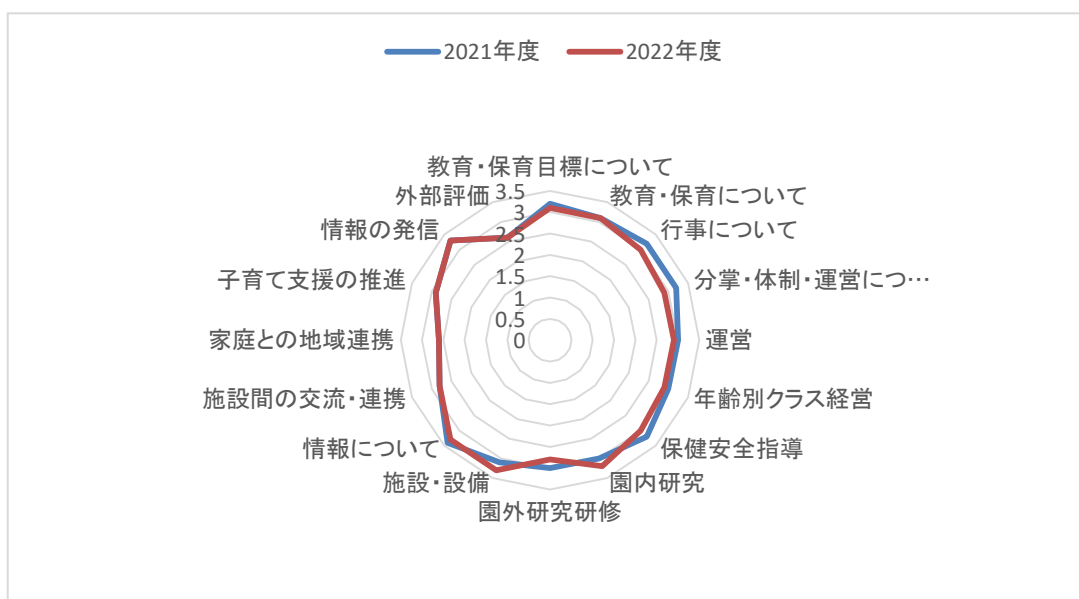


2022年度認定こども園 みどり幼稚園 自己点検・自己評価

	2021年度	2022年度
教育・保育目標について	3.2	3.1
教育・保育について	3.1	3.1
行事について	3.2	3
分掌・体制・運営について	3.2	2.9
運営	3	2.9
年齢別クラス経営	3	2.9
保健安全指導	3.2	3
園内研究	3	3.2
園外研究研修	3	2.8
施設・設備	3.1	3.3
情報について	3.4	3.3
施設間の交流・連携	2.8	2.8
家庭との地域連携	2.6	2.6
子育て支援の推進	2.9	2.9
情報の発信	3.3	3.3
外部評価	2.6	2.6



総合評価

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら行事や保育活動を工夫し取り組んできた。時差登降園などの対応も行ってきた。園児達もコロナ禍であるという意識も深まり、手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用も積極的に出来ていた。子どもの主体性を大切に子ども達自ら思いや意見などが言えるように配慮し、問いかけや言葉かけなどを考慮した。園児達が様々な経験、体験を積み、集団生活の中で社会性を身に付けていくことが出来るように保育者同士が共通理解を持ち、環境設定、特にコロナ感染を意識して多勢での活動は避け、学年毎やクラス単位での活動した。異年齢交流は思うようにできなかった。預かり保育の利用者も増加したが分散して対応し、子育て支援の役目も果たしてきた。また未就園児クラス(トリスクール)の保育は一人通園クラスは毎週開催したが、親子クラスは月2回に減らした。保育部門では経験のある保育士が1, 2歳児の保育計画を立て基本的な生活習慣の樹立を目指し保育を行った。トイレトレーニングには力を入れていた。2号・3号認定の長時間保育利用園児の関わりはクラス担任も協力して行い、こども理解に大きく反映できた。教職員はオンラインを通して園内研修(ふれあい全体研修)や園外研修に参加して自己研鑽したが、コロナ禍も影響し学びが少なかったように思う。全体的にコロナ禍での保育活動ではあったが、工夫や見直しをすることで、別の保育のあり方の発見にも繋がった。地域や他施設との連携などはお互いの理解の上で取り組む必要があり難しさも感じている。2022年度の自己評価は問題意識を多く持っていることが判明